

## 平成22年3月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成21年7月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ユー・エス・ジェイ

コード番号 2142 URL <http://www.usi.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) グレン ガンペル

問合せ先責任者 (役職名) ファイナンス・アドミニストレーション本部IR室長 (氏名) 柴田 俊一

TEL 06-6465-3134

四半期報告書提出予定日 平成21年8月6日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第1四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	12,335	△19.1	△131	—	△250	—	△2,229	—
21年3月期第1四半期	15,245	—	1,004	—	1,374	—	1,362	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△1,022.77	—
21年3月期第1四半期	629.36	617.41

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	97,627	49,263	50.4	22,515.97
21年3月期	126,707	51,070	40.3	23,545.15

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 49,208百万円 21年3月期 51,023百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	1,400.00	—	0.00	1,400.00
22年3月期	—				
22年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期累計期間	34,030	△0.9	4,470	9.6	3,800	△8.9	2,350	△43.1	1,075.27
通期	69,680	1.7	10,140	18.1	8,910	12.3	6,140	△12.3	2,809.42

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細は4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	2,185,507株	21年3月期	2,167,032株
---------------------	-------------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	—株	21年3月期	—株
-----------	-------------	----	--------	----

③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第1四半期	2,180,328株	21年3月期第1四半期	2,165,351株
--------------------	-------------	------------	-------------	------------

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成21年5月1日発表の第2四半期累計期間、通期業績予想とも修正しておりません。

2. 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におきましては、平成21年3月5日にオープンいたしました当社開業以来初となる夜のパレード「マジカル・スターライト・パレード」が引き続き大変ご好評をいただいております。「マジカル・スターライト・パレード」では、最新のライティング技術を駆使した色とりどりのイルミネーションを施した37台もの巨大なフロートが登場し、「シンデレラ」や「ふしぎの国のアリス」、「アラビアン・ナイト」といった誰もが知るおとぎ話のきらめく世界をゲストの皆様にお届けして、新たな喜びや感動をお届けするとともに、ゲストの皆様と当パーク「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」との心のつながりを創出し、安定的な入場者数を確保いたしております。

また、平成21年4月1日から5月31日の期間、「年間スタジオ・パス プライス・キャンペーン」を実施し、多くのゲストの皆様が年間スタジオ・パスをご購入いただいたほか、午後3時からご入場いただける「マジカル・トワイライト・パス」の販売を実施いたしました。

これらの諸施策を実施いたしましたが、個人消費の低迷や海外からの観光客の減少が続いていることに加えて、新型インフルエンザの感染が関西地域を中心に拡大したことにより、当第1四半期の入場者数につきましては前年を下回る結果となりました。

これらの結果、当第1四半期会計期間の売上高は前年同期に比べ2,909百万円減少し12,335百万円（前年同期比19.1%減）となりました。営業損益は、継続的なコストコントロールに努めましたが、売上高の減少を吸収できず131百万円の営業損失（前年同期は1,004百万円の営業利益）となりました。経常損益は、開発分担金収入（ユニバーサルグループとのライセンス契約に基づき、他のテーマパークで当社の特定のアトラクションが導入される場合、当該アトラクションの開発費用の一部が払い戻されるもの）等が減少したことなどにより、250百万円の経常損失（前年同期は1,374百万円の経常利益）となりました。また、「資産除去債務に関する会計基準」を早期適用したことによる影響額や、閉鎖したアトラクション「E. T.アドベンチャー」などの固定資産除却損、リファイナンス関連費用を特別損失として1,977百万円計上した結果、2,229百万円の四半期純損失（前年同期は1,362百万円の四半期純利益）となりました。

### 2. 財政状態に関する定性的情報

#### ①財政状態の状況

平成21年5月28日、S Gインベストメンツ株式会社による当社株券等の公開買付けが成立したことを受け、従前の借入金52,790百万円を返済することになりました。その返済資金として、手元資金を取り崩すとともに、平成21年6月18日に親会社であるS Gインベストメンツ株式会社から31,000百万円の借入れを行いました。

#### （資産の部）

当第1四半期会計期間末の資産の部の合計は、前事業年度末に比べ29,080百万円減少し、97,627百万円となりました。

流動資産は、長期借入金の返済などにより現金及び預金や有価証券が減少したため、前事業年度末比27,616百万円減の13,174百万円となりました。

固定資産は、テーマパーク各施設の減価償却が進んだことなどにより、前事業年度末比1,464百万円減の84,452百万円となりました。

#### （負債の部）

当第1四半期会計期間末の負債の部の合計は、借入金のリファイナンスを実施したことなどにより前事業年度末に比べ27,273百万円減少し、48,363百万円となりました。

流動負債は、1年内返済予定の長期借入金を返済したことなどにより、前事業年度末に比べ10,177百万円減少し13,283百万円となりました。

固定負債は、長期借入金が増加したことなどにより、前事業年度末に比べ17,096百万円減少し、35,080百万円となりました。

#### （純資産の部）

当第1四半期会計期間末の純資産の部の合計は、四半期純損失の計上などにより前事業年度末に比べて1,806百万円減少し、49,263百万円となりました。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末の現金及び現金同等物（以下、「資金」）の期末残高は、前事業年度末比26,808百万円減の9,414百万円（前期末比74.0%減）となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用された資金は1,665百万円(前年同期は191百万円の増加)となりました。これは四半期純損失を計上したことや減価償却費が減少したことなどによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用された資金は346百万円(前年同期比14.2%減)となりました。これは有形固定資産の取得による支出が減少したことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用された資金は24,784百万円(前年同期比633.7%増)となりました。これはリファイナンスにより借入金を返済したことなどによるものです。

### 3. 業績予想に関する定性的情報

業績予想に関しましては、7月以降、新型インフルエンザの影響がほぼ解消され、集客は関西、遠方からのゲスト共に回復しております。一度キャンセルとなった学校団体の多くも当社テーマパークへの来場の意向を示しており、また、様々な戦略的プロモーションを実施することにより、夏休み以降の集客増による業績改善は十分可能と見ております。

従いまして、平成21年5月1日公表の第2四半期累計期間、及び通期の業績予想は修正いたしておりません。

### 4. その他

#### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

簡便的な会計処理

1. 当第1四半期会計期間末における棚卸高の算出に関して、実地棚卸を省略し前事業年度に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。
2. 法人税等の納付税額の算定に関して、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合は、前事業年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

#### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)が平成22年3月31日以前に開始する事業年度から適用できることになったことに伴い、当第1四半期会計期間からこれらの会計基準等を適用しております。

これに伴い、営業損失及び経常損失が25百万円、税引前四半期純損失が781百万円増加しております。

5. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,414	28,222
売掛金	408	1,699
有価証券	—	8,000
商品	1,101	873
原材料及び貯蔵品	1,004	1,006
その他	1,247	989
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	13,174	40,791
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	47,809	47,975
構築物(純額)	16,243	15,846
機械及び装置(純額)	11,304	12,652
その他(純額)	6,115	6,285
無形固定資産	1,607	1,668
投資その他の資産	1,371	1,486
固定資産合計	84,452	85,916
資産合計	97,627	126,707
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	423	1,077
1年内返済予定の長期借入金	—	5,220
未払法人税等	136	610
前受金	9,001	10,692
賞与引当金	241	620
役員賞与引当金	0	29
その他	3,479	5,210
流動負債合計	13,283	23,460
固定負債		
長期借入金	31,000	50,180
退職給付引当金	1,042	1,021
資産除去債務	2,103	—
その他	934	976
固定負債合計	35,080	52,177
負債合計	48,363	75,637

(単位：百万円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,414	31,206
資本剰余金	8,739	8,532
利益剰余金	9,054	11,284
株主資本合計	49,208	51,023
新株予約権	54	46
純資産合計	49,263	51,070
負債純資産合計	97,627	126,707

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	15,245	12,335
売上原価	11,807	10,335
売上総利益	3,438	2,000
販売費及び一般管理費	2,434	2,131
営業利益又は営業損失(△)	1,004	△131
営業外収益		
受取利息	33	7
開発分担金収入	503	201
その他	311	37
営業外収益合計	848	246
営業外費用		
支払利息	460	264
その他	17	101
営業外費用合計	477	365
経常利益又は経常損失(△)	1,374	△250
特別損失		
固定資産除却損	10	482
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	755
リファイナンス関連費用	—	739
特別損失合計	10	1,977
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	1,364	△2,228
法人税、住民税及び事業税	1	1
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,362	△2,229

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	1,364	△2,228
減価償却費	3,121	2,554
その他の償却額	80	88
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	755
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△424	△379
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△27	△28
受取利息	△33	△7
支払利息	460	264
デリバティブ評価損益 (△は益)	△154	—
為替差損益 (△は益)	16	12
固定資産除却損	10	450
リファイナンス関連費用	—	739
売上債権の増減額 (△は増加)	1,287	1,291
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△164	△225
仕入債務の増減額 (△は減少)	△415	△653
未払金の増減額 (△は減少)	△1,609	△1,383
前受金の増減額 (△は減少)	△2,480	△1,690
その他	△309	△295
小計	722	△736
利息及び配当金の受取額	29	27
利息の支払額	△554	△552
法人税等の支払額	△5	△403
営業活動によるキャッシュ・フロー	191	△1,665
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△361	△323
無形固定資産の取得による支出	△30	△10
貸付けによる支出	—	△169
貸付金の回収による収入	—	169
その他	△12	△12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△403	△346
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	31,000
長期借入金の返済による支出	△1,750	△55,400
株式の発行による収入	16	414
リファイナンス関連費用の支出	—	△739
配当金の支払額	△1,591	△0
リース債務の返済による支出	△53	△57
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,378	△24,784
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	△12
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,607	△26,808
現金及び現金同等物の期首残高	32,449	36,222
現金及び現金同等物の四半期末残高	28,842	9,414

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## 6. その他の情報

事業部門別売上高

テーマパーク事業の販売実績を区分して示すと、次のとおりであります。

区分	前第1四半期会計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)
運営収入 (百万円)	7,952	6,254	35,470
商品販売収入 (百万円)	3,607	2,865	17,175
飲食販売収入 (百万円)	2,083	1,776	9,861
その他の収入 (百万円)	1,602	1,439	6,024
合計 (百万円)	15,245	12,335	68,530

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。